

26 明治5年11月26日 菊池長閑宛

第十五号 十一月廿六日 (長閑注記)

第拾六号并十七号拜見仕候所種々御尽被成下候得共願不叶旨付  
 札ニ相成候由実ニ県之剛情ニハ殆ト困却罷在候然しなから付札  
 之趣キ更ニ分り不申衣食を弁スルト不能弁とハ修学生之身上  
 論スル所ニシテ家族之兎ニ角暮居候ニハ關係無之勿論御願之趣  
 旨ハ資送之金即今無之と申ニ候得ハ縦令家族ハ衣食ヲ弁スルト  
 モ私ニ学資金拝借不出来訳無之且ツ何を以テ家ノ貧不貧を知候  
 や一向分り不申戸長或ハ親戚ニも不尋して官員共一個ノ暴断諸  
 県之例ト反シテ一モ理有之間敷と被考候依而御願書付札之儘監

事へ為見候処聽て同意致呉別紙願書可認旨申候ニ付差出候(扶消)  
 監事ノ学長へ談学長ノ県エ昨日懸合ニ相成候私も同日出張所ニ  
 参り能々談候得共本県ト情実隔絶之様ニ相見得何分本県之検査  
 法も分り兼候と申居候参事ハ繁用之由にて逢不申候何卒此度ハ  
 成就候得ハ宜と日夜祈禱罷在候被仰遣候三ヶ条之学資御資送方  
 ハ当今監事ハ勿論(扶消)「諸人」親友ニ為見間敷と存居候御察被下候  
 通當時実ニ窮迫罷在候得共玖平へ二十円御遣被下候趣蔭にて凌  
 可申と日夜跋望罷在候当節休業にて門限迄ニ候故今晚ニも玖平  
 を尋可申多分着候ハんと存居候右之次第故新聞紙等も遅滞スル  
 而已ならず書状すら遂後れ候不惡御承引被下度奉願候猶此度之  
 願書ハ本県エ参り可申模様ニても御聞被下候ハ、御報告被下度  
 候万々歎願成就を祈候頓首

御尊父様

武夫拜

其後何事も変候事無之候乍憚此にて新年之御賀儀目出度奉申上  
 候

一月五日

(長閑注記)

「(朱書)西一月十五日夕相達

「同十七日此方第三号ヲ以郵便へ返書出シ」